様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６６７
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１８８１３

研究課題名（和文）在宅歯科医療推進に関する科学的根拠構築のための研究

研究課題名（英文）Study to establish an evidence for the promotion of domiciliary dental care

研究代表者
田中　公美（五十嵐公美）（Tanaka, Kumi）

日本歯科大学・生命歯学部・助教

研究者番号：４０８４７６１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、在宅で生活する高齢者の口腔内の実態を把握すること、ならびに歯科訪問診療を継続不可能にさせる因子を明らかにすることを目的とした。対象者の約7割が、抜歯を必要とする歯を有しており、口腔の健康状態も不良であった。また、うがいの能力と舌の変化は、歯科訪問診療を継続不可能にさせる因子である可能性が示された。本研究の結果は、歯科訪問診療の課題の抽出、エビデンス構築に寄与したと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義
高齢者における口腔内の状態や歯科治療効果に言及した報告は、病院・施設中心であり、在宅におけるエビデンスは乏しい。我々は、地域で訪問診療を実践する医師と連携し、在宅で生活する高齢者の口腔内の実態を調査し、かつ追跡調査したことで、歯科訪問診療の成果や継続不可能となる因子を明らかにした。本研究の結果は、歯科訪問診療推進のための科学的根拠構築に確実に寄与したといえる。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to determine the oral health status among older adults receiving home medical care, as well as to identify the factors that impede the continuation of domiciliary dental care (DDC). Approximately 70% of them had teeth that required extraction, and their oral health was poor. In addition, the ability to rinse and tongue changes were shown to be possible factors that impeded DDC. We believe that the results of this study contributed to the identification of issues and the construction of evidence for DDC.

研究分野：摂食嚥下リハビリテーション、高齢者歯科

キーワード：歯科訪問診療　在宅歯科診療　口腔　歯科治療　在宅療養高齢者

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

高齢者人口の増加に伴い、介護が必要な高齢者が増加している。歯科口腔健康保健の推進により、高齢者が自身の歯を残すようになり、これが歯科疾患、口腔の諸問題の増加を招いている。

口腔の健康状態は非感染性疾患、要介護状態を引き起こす様々な原因疾患、栄養状態といった全身状態や QOL との関連が報告されている。虚弱高齢者における口腔の健康状態ならびに歯科治療の成果は、施設や病院を中心に報告されてきた。在宅療養高齢者においては、在宅特有の様々な障壁（患者側の要因、医療者側の要因、社会的な要因）により、報告は限られている。

在宅療養高齢者の増加に従い、生涯にわたる口腔保健・歯科治療推進の必要性が高まっている。口腔内の実態把握、歯科治療成果を明らかにし、適切な歯科訪問診療を提供するためのエビデンスを構築していく必要がある。

２．研究の目的

本研究の目的は以下の３つを明らかにすることである。

① 在宅療養高齢者の口腔の健康状態と全身状態、生活機能との関連
② 歯科治療による成果、口腔の変化
③ 歯科治療とその後のイベント発症（入院，死亡など）との関連

３．研究の方法

本研究は、横断および前向き研究であり、東京都の人口約 12 万の市で行った。組み入れ基準は、１）単一の在宅拠点診療所で医科訪問診療を受けている 65 歳以上の高齢者、２）医師から歯科訪問診療を推奨され、同意した者、とした。医師は、通常訪問診療の範囲内で患者やその家族に、歯科訪問診療を希望するか質問した。希望した場合は、申請者のクリニックから老年歯科医学に関する経験年数が５年以上の歯科医師が、歯科訪問診療を開始した。調査項目は、研究１では、基礎情報、介護度、生活機能、栄養状態、口腔内の状態（現在歯数、the Japanese version of Oral Health Assessment Tool；OHAT－J、要抜去歯、口腔清掃、等）であった。研究２は、これらに加え、半年後の転帰および歯科治療の継続可否、歯科治療成績、口腔内の変化を調査した。

４．研究成果

研究１　目的①達成のための横断研究を行った。最終対象者は 93 名（男性 44 名、女性 49 名、中央値年齢 87.0 歳）であった。介護度は要支援・要介護 1 が 23 名（24.8%）、要介護 2、3 が 35 名（37.6%）、要介護 4、5 が 35 名（37.6%）であった。

（１）口腔内の実態について OHAT－J の合計点数の中央値は 6 点であった。重度のう蝕歯を有する者は、歯がある 84 名中 56 名（66.7%）、重度の動揺歯を有する者は 21 名（25.0%）であった。う蝕または動揺が原因で要抜去歯を有する者は 62 名（73.8%）であった（図 1）。以上より、口腔全体の健康状態は不良であり、7 割以上に要抜去歯が存在し、適切な歯科治療が提供されていない実態が明らかになった。

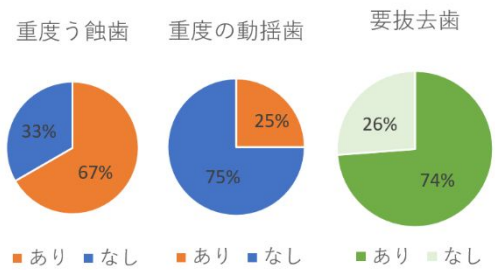

図 1 要治療歯の割合　n = 84

（２）口腔の健康状態と他の項目との関連、口腔の健康状態を悪化させる要因について

介護度は、口腔の状態を示す多くの項目で有意な関連を示さなかった。OHAT が 6 点以上であることに有意に関連したのは、口腔清掃が要介助であること、精神状態である中等度認知症、強度認知症またはうつ状態であった（表 1）。精神状態と口腔清掃との関連性は過去の報告ですでに示されている。口腔清掃が要介助であっても口腔の健康状態が不良であった要因は、日々の介護による時間・費用的な圧迫、優先度の低下、患者の拒否、知識不足等が一因と考えられた。

表 1 口腔の健康状態を悪化させる（OHAT ≥ 6 点）因子の同定

		Model 1		Model 2	
		OR (95%CI)	P値	OR (95%CI)	P値
年齢		0.96 (0.90 － 1.02)	0.215	0.96 (0.90 － 1.02)	0.190
介護度		0.79(0.57 － 1.01)	0.156	0.87 (0.64 － 1.18)	0.362
口腔清掃	要介助	5.23 (1.76 －15.54)	0.003		
	自立	reference			
神経・精神的問題	強度認知症またはうつ状態			8.55 (1.76 － 46.39)	0.013
	中等度の認知症			3.45 (1.21 － 9.88)	0.021
	問題なし			reference	

ロジスティック検定　それぞれのモデルは年齢、介護度を調整

（３）歯科未受診期間と口腔の健康状態との関連

歯科未受診期間の中央値は 23 か月であった。未受診期間が ＜1 年の者は 31 名（33.3%）であり、3 年以上歯科受診が無い者が 33 名（35.5%）であった。要抜去歯は<1 年で 67.7%、1-3 年以内で 67.9%、>3 年で 66.7%の者が有していた（図 2）未受診期間と、介護度、OHAT の高低、口腔の状態は有意な関連を示さなかった。これは、対象者の選択バイアスの影響も否定できないが、未受診期間が一年未満であっても、約 7 割に要抜去歯が存在していたことは深刻な問題であり、多職種との連携、組織的な歯科介入といった対策の必要性が示された。

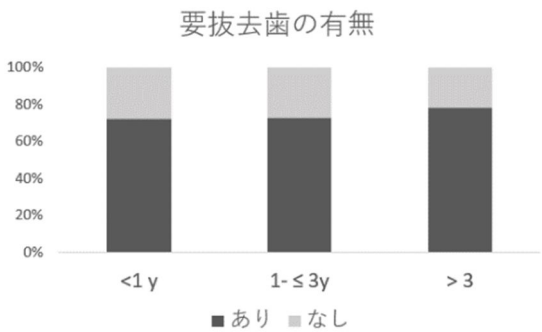

図 2 歯科未受診期間と要抜去歯の有無

研究２　目的②③達成のための前向き研究を行った。87 名中、がんターミナル 7 名、途中で拒否となった者 8 名を除き、最終対象者は 72 名（男性 34 名、女性 38 名、中央値年齢 87.0 歳）であった。半年後に歯科訪問診療を継続可能であったのは 49 名（68.1%）、不可能であったのは 23 名(31.9%)であった。継続不可能者の内訳として、15 名が死亡、施設入所が 4 名、入院が 4 名であり、事象発生までの日数は平均 76.9±47.2 日であった。

（４）歯科治療内容

歯科治療をした者は 70 名（97.2%）であった。行った内訳は、多い順に口腔ケア 39 名（55.7%）、摂食嚥下リハビリテーション 37 名（52.9%）、義歯治療は 31 名（44.3%、義歯の修理が 26 名、新製が 16 名）、抜歯 23 名（32.9%）、抜歯本数は最小値-最大値で 1-24 本、う蝕治療 11 名（15.7%）、処置本数は最小値-最大値 1-9 本であった（図 3）。

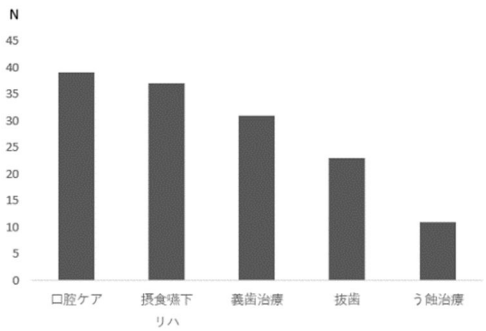

図 3 歯科治療内容の内訳

継続可否と歯科治療内容の相違について、継続可能者では、継続不可能者に比べて、有意に抜歯が行われていた。義歯調整・修理は、継続不可能者では少なく、口腔ケアは継続不可能者で多い傾向にあり、治療内容に差異を認めた（図 4）。治療内容に差を認めた原因は、①死亡、入院など事象発生までの日数；物理的な障壁、②全身状態を加味した侵襲の程度の調整；患者の全身状態の障壁、が考えられる。

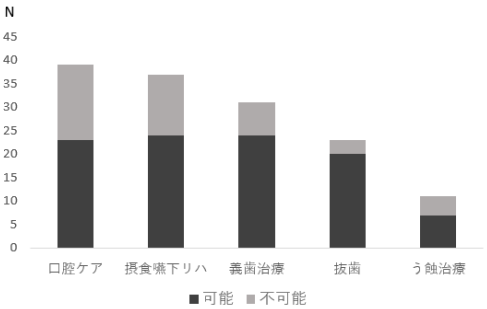

図 4 継続可否別の歯科治療内容

（5）歯科治療の成果

継続可能者 49 名において、歯科治療により、半年後のう蝕歯数、動揺歯数、現在歯数、要抜去歯の割合は有意に減少した。また、OHAT においては下位項目の舌、歯痛の項目に有意な変化はなかったが、合計点数、口唇、歯肉・粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃も有意に点数が低下した。従って、継続可能者における歯科治療は、口腔内の健康状態を改善させることが可能であった。また、口腔評価ツールである OHAT は多職種で共有可能であるため、多職種に対する歯科治療効果の発信に寄与する結果であるといえる。一方で、減少はしたものの、う蝕歯や要抜去歯は半年後も存在した。全身状態、他の医療介護サービスとの調整、患者（家族）の希望、といった在宅療養高齢者特有の障壁により、継続可能者においても半年以内に積極的治療が終了できない者がいた。

（6） 継続可否に関わる初診時の因子

継続不可能者は、Barthel Index、MNA-SF が有意に低値であり、うがいが困難であった。また、IADL 低下、OHAT 舌が≥ 1 点以上である傾向が見られた（図 5）。在宅死、医科訪問診療診療を中断させる要因として、ADL、栄養状態が挙げられている。これらに加え、うがい機能と舌の変化が、継続不可能となりうる口腔の因子として抽出された。

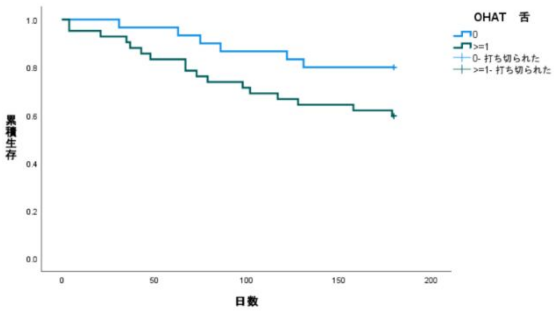

図 5 舌の状態と継続率

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計12件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Tanaka K, Tominaga T, Kikutani T, Sakuda T, Tomida H, Tanaka Y, Mizukoshi A, Ichikawa Y, Ozeki M, Takahashi N, Tamura F	４．巻 -
２．論文標題 Oral status of older adults receiving home medical care: A cross-sectional study	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Geriatr Gerontol Int	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14917	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tanaka K,Kikutani T,Tamura F,Sato S,Komagata Y,Shibasaki I,Tomioka K,Ichikawa Y,Shiobara Y,Sato T,Tohara T	４．巻 4(7)
２．論文標題 Problems experienced when swallowing solid oral dosage forms in older Japanese patients with dysphagia: A cross-sectional study	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Special Care in Dentistry	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/scd.12853	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tanaka K,Kikutani T,Tohara T,Sato S,Ichikawa Y,Takahashi N,Tamura F	４．巻 8(2)
２．論文標題 Two case reports using a proposed oral risk assessment tool for older people near the end of life	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Clin Exp Dent Res	６．最初と最後の頁 600-609
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/cre2.566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kikutani T,Takahashi N,Tohara T,Furuya H,Tanaka K,Hobo K,Isoda T,Fukui T	４．巻 22(11)
２．論文標題 Relationship between maintenance of occlusal support achieved by home-visit dental treatment and prognosis in home-care patients-a preliminary study.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Geriatr Gerontol Int	６．最初と最後の頁 976-981
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14482	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroyasu Furuya, Takeshi Kikutani, Kumi Igarashi, Keiichiro Sagawa, Yuri Yajima, Reiko Machida, Takashi Tohara, Noriaki Takahashi, Fumiyo Tamura	4．巻 47
2．論文標題 Effect of dysphagia rehabilitation in patients receiving enteral nutrition at home nursing care: A retrospective cohort study	5．発行年 2020年
3．雑誌名 J Oral Rehabil	6．最初と最後の頁 977-982
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/joor.13030. Epub 2020 Jul 13.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 南 ひかる，花形 哲夫，笠井 隆司，安富 和宏，山田 幸，田中 公美，田村 文誉，菊谷 武	4．巻 36(1)
2．論文標題 某無歯科医地区における在住高齢者の歯科受診に関する実態調査	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本口腔リハビリテーション学会雑誌	6．最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富田 浩子，菊谷 武，田中 祐子，有友 たかね，古屋 裕康，田中 公美，水上 美樹，大井 裕子	4．巻 36(1)
2．論文標題 終末期在宅がん患者に対する口腔健康管理	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本口腔リハビリテーション学会雑誌	6．最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ohi Yuko、Kikutani Takeshi、Tanaka Kumi、Kato Yoko、Moriyama Kumi	4．巻 18
2．論文標題 終末期がん患者と家族のよりよい療養場所の意思決定支援における現状確認ツールIMADOKO活用の影響	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Palliative Care Research	6．最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2512/jspm.18.117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 尾関 麻衣子、菊谷 武、仲澤 裕次郎、田中 公美、佐藤 志穂、駒形 悠佳、宮下 大志、戸原 雄、高橋 賢晃、田村 文誉	4．巻 38
2．論文標題 回復期から在宅まで切れ目のない摂食嚥下リハビリテーションと栄養介入により完全経口摂取が可能となった胃瘻患者の1例	5．発行年 2023年
3．雑誌名 老年歯科医学	6．最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11259/jsg.38.1_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大井 裕子、菊谷 武、田中 公美	4．巻 5
2．論文標題 在宅療養中の終末期がん患者の食欲不振に対する症状緩和と栄養サポートにより経口摂取量が増加する可能性に関する考察	5．発行年 2024年
3．雑誌名 日本在宅医療連合学会誌	6．最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34458/jahcm.5.2_52	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古屋 裕康、田村 文誉、菊谷 武、田中 公美、仲澤 裕次郎、保母 妃美子、礒田 友子、山田 裕之、戸原 雄、高橋 賢晃	4．巻 42
2．論文標題 新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン診療に対する摂食嚥下障害患者の意識調査	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本障害者歯科学会雑誌	6．最初と最後の頁 210-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14958/jjsdh.42.210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古屋 裕康、戸原 雄、田村 文誉、菊谷 武、田中 公美、仲澤 裕次郎、佐川 敬一朗、横田 悠里、保母 妃美子、礒田 友子、山田 裕之	4．巻 35
2．論文標題 COVID-19蔓延下における摂食嚥下障害患者へのオンライン診療の取り組み	5．発行年 2021年
3．雑誌名 老年歯科医学	6．最初と最後の頁 266-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11259/jsg.35.266	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計28件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 田中公美
2．発表標題 回復期における歯科の役割と医療連携　回復期リハビリテーション病棟における歯科訪問診療の現状と課題
3．学会等名 日本老年歯科医学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 鰕原 賀子，田中 公美，児玉 実穂，町田 麗子，元開 早絵，高橋 育美，田村 文誉，菊谷 武
2．発表標題 大腿骨骨折で手術適応となった後期高齢患者の口腔スクリーニング結果と食形態の関係
3．学会等名 日本老年歯科医学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 市川 陽子，菊谷 武，高橋 賢晃，戸原 雄，古屋 裕康，田中 公美，田村 文誉
2．発表標題 舌筋にみられる加齢に伴う内部性状変化:せん断波エラストグラフィによる検討
3．学会等名 日本老年歯科医学会
4．発表年 2023年

1．発表者名 古屋 裕康，田中 公美，宮下 大志，仲澤 裕次郎，戸原 雄，高橋 賢晃，尾関 麻衣子，田村 文誉，菊谷 武
2．発表標題 摂食嚥下リハビリテーションを実施した在宅患者の肺炎発症因子の検討
3．学会等名 日本老年歯科医学会
4．発表年 2023年

１．発表者名 古屋 裕康，菊谷 武，高橋 賢晃，戸原 雄，仲澤 裕次郎，田中 公美，宮下 大志，市川 陽子，田村 文誉
２．発表標題 在宅での食支援と療養生活継続に影響を与える因子の検討
３．学会等名 日本在宅医療連合学会大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Furuya H, Kikutani T, Tanaka K, Nakazawa Y, Tohara T, Takahashi N, Tamura F
２．発表標題 A study on factors for developing pneumonia in home care patients who received dysphagia rehabilitation
３．学会等名 The 1st International Conference of the Asian Dysphagia Society（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 菊谷武,古屋 裕康，高橋 賢晃，戸原 雄，田中 公美，田村 文誉
２．発表標題 在宅診療下における義歯使用に関連する因子
３．学会等名 日本口腔リハビリテーション学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 田中公美 ,菊谷 武，高橋 賢晃，佐藤 志穂，市川 陽子，田中 祐子，富田 浩子，戸原 雄，田村 文誉
２．発表標題 在宅療養高齢者における歯科訪問診療継続可否の予測因子の検討
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 高橋 賢晃，菊谷 武，戸原 雄，保母 妃美子，礒田 友子，古屋 裕康，仲澤 裕次郎，田中 公美，宮下 大志，加藤 陽子，田村 文誉
２．発表標題 口腔機能低下症診断項目と摂食嚥下障害,フレイル,サルコペニアとの関連
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 南 ひかる，花形 哲夫，笠井 隆司，山田 幸，田中 公美，菊谷 武
２．発表標題 無歯科医地区における在住高齢者の歯科受診に関する実態調査
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 大井 裕子，森山 久美，菊谷 武，田中 公美，高橋 賢晃，加藤 陽子，富田 浩子，有友 たかね
２．発表標題 消化管通過障害によって食べられない終末期がん患者のまだ食べられる時期に食べたい希望をどう支えるか　多職種で在宅療養中のがん患者の食べる希望を支えた症例の考察
３．学会等名 Palliative Care Research
４．発表年 2022年

１．発表者名 大井 裕子，菊谷 武，田中 公美，加藤 陽子，森山 久美
２．発表標題 在宅医療におけるACP-現状と課題　現状確認ツールIMADOKOを用いたACPが在宅がん患者の終末期ケアに与える影響
３．学会等名 日本在宅医療連合学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 菊谷　武，大井　裕子，高橋　賢晃，市川　陽子，佐藤　志穂，田中　公美，富田　浩子，有友　たかね ，森山　久美
２．発表標題 在宅でのがん看取り支援における歯科訪問診療の役割
３．学会等名 日本在宅医療連合学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 宮下　大志，菊谷　武，永島　圭悟，戸原　雄，佐川　敬一朗，古屋　裕康，矢島　悠里，五十嵐　公美，仲澤　裕次郎，保母　妃美子，礒田　友子 ，田村　文誉
２．発表標題 サルコペニアと関連した嚥下障害が嚥下造影検査による嚥下器官の動態に与える影響
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 宮下　大志，菊谷　武，永島　圭悟，五十嵐　公美
２．発表標題 嚥下障害患者における嚥下造影検査で観察される嚥下動態とサルコペニアとの関連性
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 菊谷　武，田中　公美,仲澤　裕次郎，佐川　敬一朗，横田　悠里，保母　妃美子，礒田　友子，山田　裕之，戸原　雄 ，田村　文誉
２．発表標題 COVID-19蔓延下における摂食嚥下障害患者へのオンライン診療の取り組み
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 古屋　裕康，菊谷　武，田中　公美,仲澤　裕次郎，保母　妃美子，礒田　友子，山田　裕之，戸原　雄，高橋　賢晃 ，田村　文誉
２．発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン診療に対する摂食嚥下障害患者の意識調査
３．学会等名 障害者歯科学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 古屋　裕康，田村　文誉，田中　公美,仲澤　裕次郎，保母　妃美子，礒田　友子，田中　祐子，山田　裕之，町田　麗子，戸原　雄 ，菊谷　武
２．発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン診療に対する意識調査
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 五十嵐　公美，菊谷　武，佐藤　志穂，田中　祐子，佐川　敬一朗，古屋　裕康，矢島　悠里 ，田村　文誉
２．発表標題 医科訪問診療が開始された患者における歯科的対応の必要性の検討
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森山　久美，大井　裕子，菊谷　武，高橋　賢晃，田中　公美，富田　浩子 ，有友　たかね
２．発表標題 終末期がん患者の希望に添った食べる支援を実践するための食欲不振の背景にある要因調査と対応策
３．学会等名 日本在宅医療連合学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 大井　裕子，菊谷　武，田中　公美，高橋　賢晃，富田　浩子，有友　たかね ，森山　久美
２．発表標題 終末期がん患者の希望に添った食べる支援を実践するための食欲不振の背景にある要因調査と対応策
３．学会等名 日本在宅医療連合学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 仲澤　裕次郎，田中　公美，横田　悠里，佐川　敬一朗，古屋　裕康，礒田　友子，保母　妃美子，山田　裕之，戸原　雄，田村　文誉 ，菊谷　武
２．発表標題 VR画像を用いた歯学部学生における臨床実習の効果について
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 富田　浩子,田中　祐子，有友　たかね，田中　公美，佐藤　志穂，佐々木　力丸，菊谷　武 ，大井　裕子
２．発表標題 看取り期における在宅がん患者に対する地域連携による口腔健康管理
３．学会等名 老年歯科医学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 五十嵐 公美，菊谷 武，矢島 悠里，佐川 敬一朗，古屋 裕康，仲澤 裕次郎，尾関 麻衣子，戸原 雄
２．発表標題 在宅がん患者の人生の最終段階における歯科訪問診療の取り組み
３．学会等名 学会誌JSPEN
４．発表年 2020年

１．発表者名 古屋 裕康，佐川 敬一朗，矢島 悠里，五十嵐 公美，戸原 雄，田村 文誉，菊谷 武
２．発表標題 当クリニックにおける在宅療養患者に対する摂食支援の実態
３．学会等名 学会誌JSPEN
４．発表年 2020年

１．発表者名 永島 圭悟，矢島 悠里，五十嵐 公美，田村 文誉，菊谷 武
２．発表標題 サルコペニアが嚥下機能に与える影響　舌圧、嚥下造影検査所見からの検討
３．学会等名 日本老年医学会雑誌
４．発表年 2020年

１．発表者名 山根 由起子，橋本 和季，菊谷 武，佐川 敬一朗，古屋 裕康，矢島 悠理，五十嵐 公美，小原 章央
２．発表標題 居宅療養神経難病高齢者における摂食嚥下機能低下に関連する要因
３．学会等名 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集
４．発表年 2020年

１．発表者名 五十嵐公美，菊谷武，佐藤志穂，田中祐子，佐川敬一朗，古屋裕康，矢島悠里，田村文誉
２．発表標題 医科訪問診療が開始された患者における歯科的対応の必要性の検討
３．学会等名 日本老年歯科医学会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック　業績 https://www.tky.ndu.ac.jp/hospital/tama_clinic/information/achievements.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関